

丹波篠山市立文化会館個別施設計画

丹波篠山市立 田園交響ホール

丹波篠山市立 さぎそうホール

2021年2月策定

丹波篠山市教育委員会
田園交響ホール

丹波篠山市立田園交響ホール・さぎそうホール 個別施設計画

目 次

第1章 対象施設

- (1) 対象施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 対象施設の活用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (3) 対象施設の劣化状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第2章 計画期間

- (1) 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 過去の主な改修経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第3章 優先順位の考え方

- (1) 施設間の優先順位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 施設内の優先順位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第4章 対策内容と考え方

- (1) 今後の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (2) 各所対策計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

別紙資料①・・・・・・・・・・田園交響ホール 簡易長期保全計画シミュレーション

別紙資料②・・・・・・・・・・さぎそうホール 簡易長期保全計画シミュレーション

第1章 対象施設

(1) 対象施設の概要

【田園交響ホール】

田園交響ホールは、ホロンピア'88北摂・丹波の祭典の中核施設として、昭和63年4月に、「地域住民の文化芸術の高揚を促進し、併せて福祉の増進を図る」ことを目的に、兵庫県によって設置されました。

当ホールは、音楽ホールとしての機能を最も重視した設計になっていますが、あらゆる用途に対応できる多目的ホールであり、丹波地域だけでなく、多くの方々に文化振興の殿堂として新しい田園文化都市づくりの拠点、文化の発信地として活用されてきました。

ホールは当初、兵庫県所有の施設であり、運営を篠山市が行ってきましたが、平成22年の兵庫県の新行革プランに基づき、大規模改修工事の終了後、平成23年4月1日、兵庫県から篠山市に移譲、令和元年5月には、市名変更と共に「たんば田園交響ホール」から「田園交響ホール」と改名されました。

- ◆設置年月日 昭和63年（1988年）4月1日
- ◆建築延面積 3,117.05㎡
- ◆所在地 兵庫県丹波篠山市北新町4-1
- ◆構造 鉄筋コンクリート造2階建（1部3階建）
- ◆座席数 800席（内車椅子席4席）
- ◆総工費 11億2,000万円

※ホールの大規模改修工事（平成22年度） 総事業費：3億8,300万円

【さぎそうホール】

さぎそうホールは、篠山市合併の年である平成11年の9月に今田地区の「まちづくりの施設」として、文化芸術の促進を目的に開館されました。

施設の特性としては、講演会から、演劇、生演奏会、コンサートなど各種イベントに対応できる多目的ホールです。

平成21年からは篠山市再生計画により、経費のかからない運営方法として、冷暖房設備等の動力電源を休止し、今田中学校の活用時期を主体とした3月～4月、10月～11月の4ヶ月のみ開館しています。

- ◆設置年月日 平成11年（1999年）9月1日
- ◆建築延面積 1080.37㎡
- ◆所在地 兵庫県丹波篠山市今田町今田新田14-1
- ◆構造 鉄筋コンクリート造2階建
- ◆座席数 340席（内、固定席214席、可動席126席）
- ◆総工費 5億6,000万円

（2）施設の活用状況

【田園交響ホール】

年度	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年
利用率	84.6%	79.6%	77.4%	82.2%	79.3%	80.0%	75.9%	70.2%	72.2%	70.4%
入館者数	121,873	63,981	50,858	56,061	63,708	74,674	64,750	65,279	56,392	69,645

年度	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
利用率	69.7%	67.4%	70.2%	72.2%	65.2%	88.1%	71.1%	59.3%	66.3%	74.3%
入館者数	62,182	61,954	59,909	56,802	60,339	51,886	48,405	47,700	42,609	40,870

年度	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
利用率	69.8%	59.3%	59.4%	52.7%	47.9%	62.7%	62.8%	61.3%	53.4%	57.4%
入館者数	38,284	45,546	33,030	47,292	40,722	43,001	43,419	46,299	42,048	38,378

年度	2018年	2019年
利用率	46.4%	55.6%
入館者数	40,868	39,591

【さぎそうホール】 ※1999年度～2003年度まではデータなし

年度	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
利用率	20.8%	25.4%	27.5%	25.6%	25.4%	31.0%	34.4%	33.7%	36.0%	31.9%
入館者数	7,305	7,078	8,555	7,698	6,843	3,305	3,934	3,585	3,846	3,727

※2009年度より年4か月の開館

年度	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
利用率	29.3%	33.3%	25.0%	26.4%	29.8%	33.3%
入館者数	2,654	2,677	2,177	2,586	2,297	2,499

(3) 対象施設の劣化状況

【田園交響ホール】

当該施設は、築後32年が経過していますが、平成22年に1回目の大規模改修が終了し、外壁・内装・客席等の建物の劣化状況は改善されました。しかしその後の東日本大震災で特定天井の基準が見直され、客席天井の改修を進めなければなりません。

また、舞台・音響・照明設備や電気設備、空調設備等の更新が迫ってきています。

文化創造の拠点施設としての機能向上及び利用者等の安全・安心を確保することを基本に今後の文化会館としてのあり方（方向性）について検討を要します。

【さぎそうホール】

当該施設は、築後20年が経過していますが、大規模な改修は行われていないことから、老朽化等による施設や設備に不具合が生じつつあります。

特に、屋根・外壁・消防設備は、経年劣化により、屋上の漏水、壁面の落下、剥落、排煙口の不具合が発生し、その都度修繕を行っていますが、危険性が高く人的被害につながる可能性が考えられます。

また、田園交響ホール同様に特定天井に該当しますので、対策を要します。

今後、これらの大規模改修に係る経費は、数千万と予想され、費用対効果を考えると市内ホール施設の役割を明確にしつつ、利用者等の安全性の確保を最優先に施設の存廃を含め検討する必要があります。

第2章 計画期間

(1) 計画期間

本計画の計画期間は、公共施設再編計画の計画期間である2022年度から2056年度までの35年間の長期計画を策定します。

なお、財政状況を踏まえた実効性の高い計画としていくため、取組の進捗状況等を踏まえ、計画期間内であっても必要に応じて計画の見直しを行います。

(2) 過去の主な改修経緯

年度		金額	経過年	備考
S63	1988	1,120,000,000		竣工
H11	1999	6,764,000	11	舞台吊物装置改修工事①
H12	2000	23,136,000	12	音響装置メイン調整卓
		6,177,000	12	舞台吊物装置改修②
H13	2001	9,630,000	13	舞台吊物装置改修③
		97,326,000	13	舞台照明設備入替改修
H14	2002	2,590,000	14	舞台吊物装置改修追加④
H15	2003	4,253,000	15	舞台電動吊物改修⑤
		1,824,000	15	業務用放送設備修理
H16	2004	37,763,000	16	出力系音響装置
H20	2008	5,943,000	20	吸収冷暖房機 延命対策整備作業
H22	2010	10,390,000	22	大規模改修 設計業務
		8,557,000	22	大規模改修 監理業務
		145,425,000	22	施設改修工事(外装、内装、自火報、監視カメラ、トイレ、客席)
		146,977,000	11	舞台改修(吊り物、迫り、反射板・ライト、幕、オケピ)
		28,339,000	22	空調改修(オーバーホール、個室エアコン、浴室)
		5,324,000	9	舞台照明 電源レギュレーター取替工事
		4,620,000	22	ピンスポット取替工事
		6,300,000	10	ワイヤレスインカム更新
H30	2018	1,516,000	8	照明卓延命措置
		585,000	8	ピンスポットランプ交換
R1	2019	3,900,000	31	スタインウェイピアノオーバーホール
R2	2020	7,260,000	10	空調改修(抽気関係、電装関係)
		1,518,000	10	壁紙張替
R3	2021	66,000,000	21	音響設備入力系改修工事
		2,270,000	32	ヤマハピアノオーバーホール

第3章 対策内容と考え方

(1) 今後の方向性

【田園交響ホール】

当該施設は年間4万人以上が来館、イベント以外にも市地域防災計画で避難所の中核施設としても利用され、市内外の多様な人が訪れる市のシンボリック施設です。

規模が大きいため、施設運営・修繕に要する費用も多額となりますが、できる限りの支出の抑制するためにも適切な保全計画を策定し、予防保全による施設の長寿命化を検討していきます。

【さぎそうホール】

電気設備や機械設備等は新築時より更新・改修が行なわれておらず、耐用年数を超えている状況にあります。特に、消防設備点検時に指摘される事項や動作の不具合も多発し、人的被害につながる可能性があり、安全性の確保が喫緊の課題となっています。

数年は、対処療法的な修繕で対応できますが、経費的なことを考えると、隣接する今田体育館の舞台改修を行う事での転用も比較検討していかなければなりません。

(2) 各所対策計画

【田園交響ホール】

- ・ 建築関係大規模改修 25年周期（2010年改修）

（別紙参照・管財契約課作成分）

- ・ 特定天井改修 80,000,000円

大規模改修時は必須となっており、現在は改修が望ましいとなっていますが、できる限り早期の改修に向け検討が必要です。

- ・ 舞台機構 15年周期（2010年改修） 55,000,000円

2か月毎に保守点検は行っていますが、天井部の多数の吊り物に常時大きな荷重（100kg～1000kg）や複雑な迫り機構が作用しており、多数の利用者が出入りしますので、万一の事故が発生すると大変な事態となるため定期的なワイヤー・滑車・ロープ類の交換が必要です。

- ・ 舞台床 40年で張替 15,000,000円

開館時より、更新はありません。使用頻度にもよりますが建築耐用年数の半分年を目指し更新します。

- ・照明設備 20年周期（2001年改修） 90,000,000円
調光操作卓のサポートが2020年9月に終了、構成基盤が生産・在庫終了となり、不具合があった場合、修理対応ができません。また、照明器具のLED化も進んでおり全面的な見直しが必要なため、2022年度に機器の全面更新を予定しています。

- ・音響設備 20年周期
（入力系2000年改修）66,000,000円・（出力系2002年改修）60,000,000円
音響調整卓は2015年の生産完了から6年経過しており、経年劣化による不具合がたびたび発生していますが、修繕部品の枯渇で修繕不能となることも考えられます。
2021年度は、調整卓を中心に入力系の更新を行い、順次サポートの切れる出力系は、2023年度に更新と2度に分けて予定しています。

- ・空調設備（別紙整備計画表参照）
開館時より更新はしておらず、40年目に熱交換機更新（40,000,000円）と44年目に冷暖房機更新（30,000,000円）と更新年をずらし、建築耐用年数の約半分年の時期の更新を目指します。
また、10年周期で各所部品交換、整備等が必要となります。
（2020年整備）8,000,000円

- ・キュービクル 40年で全更新を予定しています。 14,000,000円
開館時より、更新しておらず、機器自体の劣化、さび発生がみられるため、保守点検業者である電気主任技術者と協議の上、適正な維持管理を行い、建築耐用年数の約半分年の更新時期を目指します。

丹波篠山市立文化会館個別施設計画 2021年3月 策定

丹波篠山市教育委員会 田園交響ホール
〒669-2332 兵庫県丹波篠山市 4 1
TEL 079-552-3600 FAX 079-552-3646
E-Mail denen_div@city.sasayama.hyogo.jp